

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2021年8月号)

2021/07/30

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し

※各マーケットコメントは7月31日(金) 9:00現在
※休日の実績は前営業日

		7月29日現在 (矢印は6月末比)	8月の予想
USD	ドル・円 (円)	↘ 109.48	↘ 108.00 ~ 111.50
	夏枯れ相場、ジャクソンホール会議は支援材料とはなりづらい		
EUR	ユーロ・ドル (ドル)	↗ 1.189	↘ 1.17 ~ 1.21
	ユーロ・円 (円)	↘ 130.14	↘ 128.00 ~ 132.00
GBP	ポンド・ドル (ドル)	↗ 1.396	⇒ 1.36 ~ 1.42
	ポンド・円 (円)	↘ 152.84	↘ 148.00 ~ 155.00
AUD NZD	豪ドル・円 (円)	↘ 80.98	↘ 78.00 ~ 82.00
	NZドル・円 (円)	↘ 76.75	⇒ 75.00 ~ 78.00
株式 相場	日経平均 (円)	↘ 27,782	⇒ 26,500 ~ 28,500
	NYダウ (ドル)	↗ 35,085	↗ 34,000 ~ 35,500
長期 金利	日本 (%)	↘ 0.021	⇒ 0.00 ~ 0.08
	米国 (%)	↘ 1.269	⇒ 1.15 ~ 1.40

金融正常化期待高まるもBOEは慎重姿勢、ポンドの方向感出づらい
オセアニア通貨は弱含みとなりやすいがNZドルは金融政策で反転
国内の感染拡大から上昇期待しづらいが下値も限定的
感染拡大の中でも米国経済は正常化進む、低位の米金利がサポート
雇用・物価指標やジャクソンホールに注目、金利上昇要因は乏しい

◆ 今月の注目ポイント

デルタ株の拡大とFRBのテーパリングの行方

テーマ	注目度	今月の注目ポイント
景気 動向	○	【コロナデルタ株の感染拡大】ワクチン接種が先行して進む国々でもデルタ株の感染が拡大中。重症率は過去の感染拡大時に比べれば抑えられているものの、引き続き予断を許さない状況は続く。
金融 政策	◎	【FRBテーパリングの行方】デルタ株の拡大や景気回復の頭打ち感等から特に債券市場を中心に先行きの景気悪化を懸念する向きが強い。かかる中、8/26-28に開催予定のジャクソンホール経済シンポジウムでは、パウエル議長より年末から年始にも開始されると見られているテーパリングに関して、何らかの踏み込んだ発言があるかに注目。
政治	◎	【米国インフラ投資と債務上限】7月末に上院にて1兆ドル規模のインフラ投資案の審議入りが可決、9日の議会休会までの法案可決を目指す。今後は民主党単独での可決を目指す3.5兆ドル規模の人的インフラ案の予算決議案動向に注目。また8/1より復活する債務上限について、議会予算局は当面の手当てはできるものの、10月にも資金が枯渇するとしており、引き続き議会動向に注目。

◆ 新興国通貨見通し

人民元・円	⇒ 16.8 ~ 17.2	レアル・円	↘ 19.5 ~ 22.5
バーツ・円	↘ 3.20 ~ 3.40	メキシコペソ・円	↘ 5.30 ~ 5.60
ルピア・円	↘ 0.73 ~ 0.78	ルーブル・円	↗ 1.47 ~ 1.53
ルピー・円	⇒ 1.45 ~ 1.50		

◆ 今月の重要日程

2日(月) 米	7月ISM製造業	16日(月) 日	21/2QGDP1次速報
4日(水) 米	7月ISM非製造業	16日(月) 中	7月生産・小売・投資
5日(木) 英	BOE金融政策委員会	17日(火) 米	7月小売売上高
6日(金) 米	7月雇用統計	18日(水) 米	FOMC議事録(7/27、28)
11日(水) 米	7月CPI	20日(金) 日	7月CPI
13日(金) 米	8月ミシガン大消費者信頼感指数	23日(月) 欧	8月PMI

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい

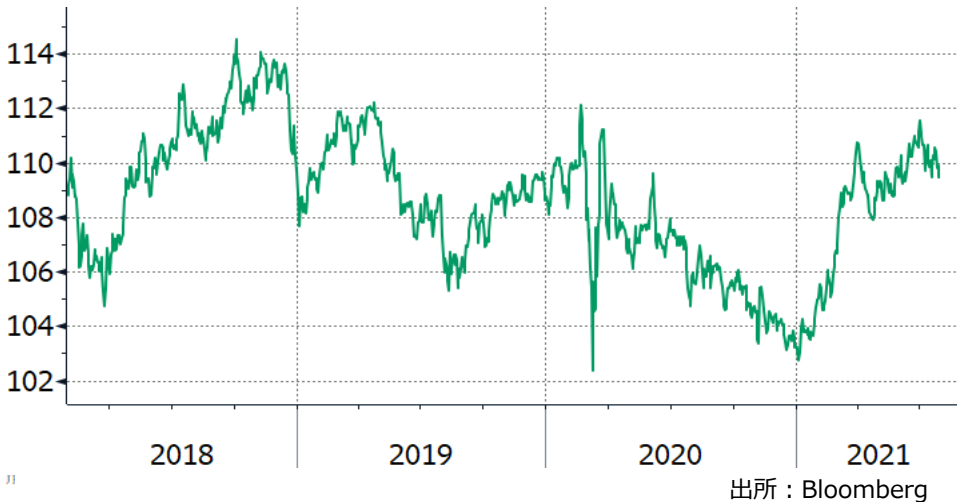


りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2021年8月号)

◆ 今月の相場見通し① 為替 (ドル・ユーロ)

ドル 円



米ドル円



ドル円は下落

108.00 – 111.50円

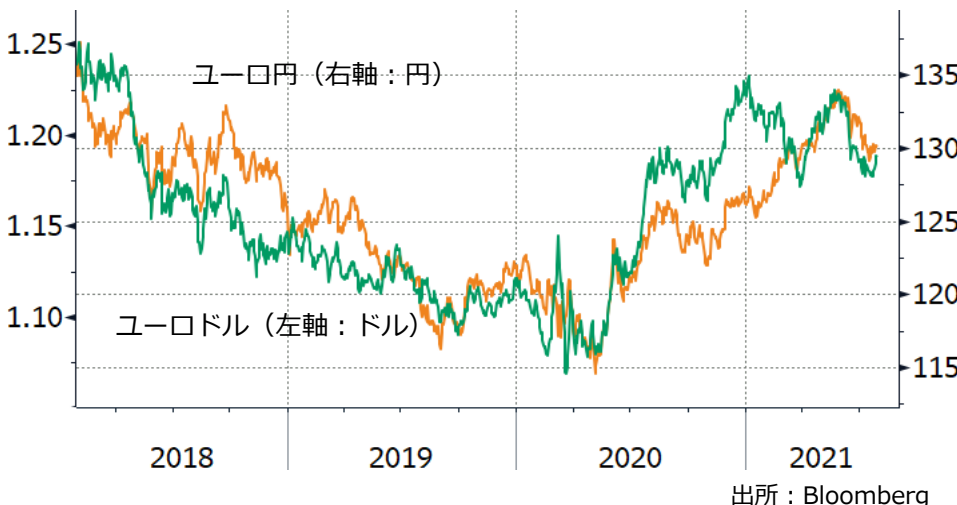
オリンピックよりジャクソンホール！パウエル議長は“ゴン攻め”するのか

7月のドル円相場は月初に111.66円をつけ、年初来高値を更新した。その後は米国の長期金利が低下基調を辿ったこともあり、上値重く推移し、一時110円台を割り込んだ。

8月のドル円相場も、引き続き上値の重い展開を予想する。国内外ともに夏季休暇で参加者が減少し、上下ともに動意の出にくい時間帯となるが、流動性が低下しているため、突発的にボラティリティが上昇する可能性がある点には、注意が必要だろう。

最大の注目材料は8月26日～28日の日程で行われるジャクソンホール会議であろう。FRBのパウエル議長の講演でテーパリングに関する議論の進捗具合を確認することになるが、既にテーパリングについては相応に織り込まれており、市場の関心は利上げ時期やペース、利上げ到達点等に移っている。デルタ株の蔓延や米国景気回復のピークアウト懸念が台頭するなかでタカ派姿勢を強めるとは考えにくく、従来通りの慎重なスタンスを維持すると見込まれることから、ドル円の支援材料とはなりにくいだろう。原油を含めたコモディティ価格にピークアウト感があることも、円安一巡の要因となる。引き続き夏場にドル円は下落しやすいという季節性を体現する展開を予想する。

ユーロ



ユーロドル



ユーロドルは下落

1.17 – 1.21ドル

ユーロ円



ユーロ円は下落

128.00 – 132.00円

ユーロドル、ユーロ円はともに下落を予想

7月のユーロは、対ドル、対円ともに下落した。ECBの戦略見直し、およびその後のECB理事会にて、従来の「2%未満かつその近辺」という物価目標を「中期的に2%」へ変更し、併せて強力な金融緩和を継続するフォワードガイダンスを強化した。種々の不確定要素を孕みながらも着実と金融正常化への道を辿っていくと考えられるFRBとの対照性が明確に示されたと言える。

ワクチン接種進展による経済再開期待や復興基金等の財政支援への期待等を背景に、投機筋はユーロの買い越しポジションを高水準で維持してきたが、ECBとFRBの政策スタンスに違いに加え、デルタ株の感染拡大等から足元では徐々に買い越し幅を縮小している。今秋にはドイツのメルケル首相の引退及び総選挙が控えており、政治リスクもEURを不安定化させる一因となろう。

足元では昨年来大きく進んできた円安の反動により、円が買い戻されやすい地合いとなっており、ユーロが売られる局面では特に対円（ユーロ円）に下落リスクが大きいだろう。

◎ 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

© 注意事項をよくお読み下さい

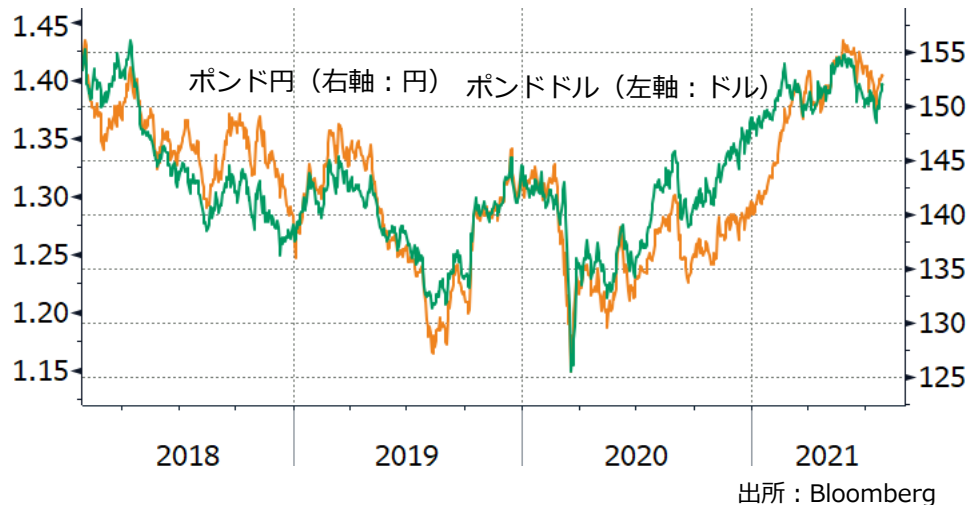


りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2021年8月号)

◆ 今月の相場見通し② 為替 (ポンド・豪ドル・NZドル)

ポ ン ド



ポンドドル

⇒ ポンドドルは横ばい

1.36- 1.42ドル

ポンド円

⇩ ポンド円は下落

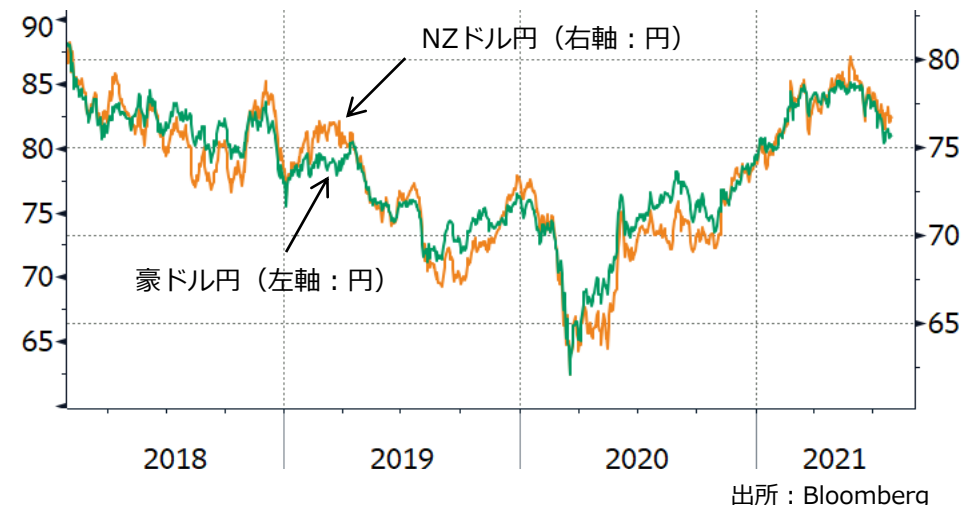
148.00 - 155.00円

ポンドドルは横ばい、ポンド円は下落を予想

7月のポンドは対ドルで上昇、対円で下落となった。月初にジョンソン首相が19日に新型コロナによる経済活動制限を撤廃する方針を発表し、経済正常化の期待が強まったが英金利の低下基調でポンドの上値は重かった。中旬にコロナのデルタ株の広がりで保険相も感染したことから景気減速懸念が強まり、ポンドは対ドルで一時1.35台まで下落した。月末にかけては感染者増加に対して死者と重傷者がそれほど増加していないことが好感され、ポンド買いが優勢、対ドルで1.4手前まで上昇した。

8月のポンドはドル及び円に対して横ばいを予想。足元イギリスのCPIが急上昇、更にコロナの感染者がピークから減少に転じたことで、BOEの金融正常化期待が高まり、ポンドは上昇バイアスがかかっている。しかし、製造業景況感に頭打ち感が出ており、BOEも早期の引き締めに対して慎重な姿勢を締めている。よって、8月のポンドは対ドルで方向感ない動きになりやすいと予想。

豪 ド ル ・ N Z ド ル



豪ドル円

⇩ 豪ドル円は下落

78.00 - 82.00円

NZドル円

⇒ NZドル円は横ばい

75.00 - 78.00円

円高含みで豪ドル円、NZドル円は弱含みとなりやすいがNZドル円は金融政策次第で反転

7月のオセアニア通貨はNZドルは底堅く推移したものの豪ドルは弱さが目立った。対円レートでは総じてリスク回避の円高が進行したことで豪ドル円、NZドル円ともにレンジを切り下げが豪ドルの下落が目立った。NZドルは金融政策が材料、14日のNZ中銀会合で量的緩和の停止を発表、予想外のタカ派姿勢で買い優勢の展開となった。

8月の豪ドル円、NZドル円相場も円高含みの中で下落しやすい展開が続くと見込まれるが、マイナス材料は豪ドルに多い。豪州では新型コロナウイルスの感染者増加を受けて一部でロックダウンを実施。シドニーのロックダウンは8/28まで延長されており、足元の景気鈍化が警戒される。一方でNZドルは8/18のNZ中銀会合で利上げ前倒しに向けた動きがみられれば、反転上昇する可能性も。先進国内でもっとも利上げに近い状況にある。

© 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

© 注意事項をよくお読み下さい

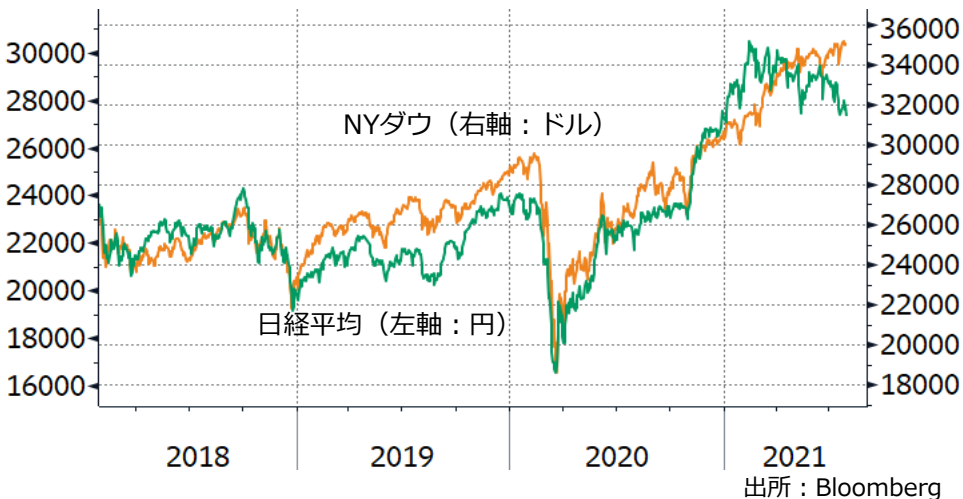


りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2021年8月号)

◆ 今月の相場見通し③ 株式、長期金利

株 式 見 通 し



日経平均

⇒ 日経平均は横ばい

26,500 – 28,500円

日経平均は横ばいを予想

7月の日本株は、ワクチン接種の進む国でのデルタ株感染の拡大や、中国当局の規制強化等を受け下落した。今月の日本株も上値の重い展開を予想。足元国内でもデルタ株の拡大から連日過去最多の感染者数を更新、緊急事態宣言対象地域も拡大される見込みであり、株価の上昇は期待しづらい。一方で五輪が終了すれば懸念事項が一つ払拭となるほか、引き続きワクチン接種が進み景気の底割れ懸念も大きく後退しつつあり、下値も限定的。

NYダウ

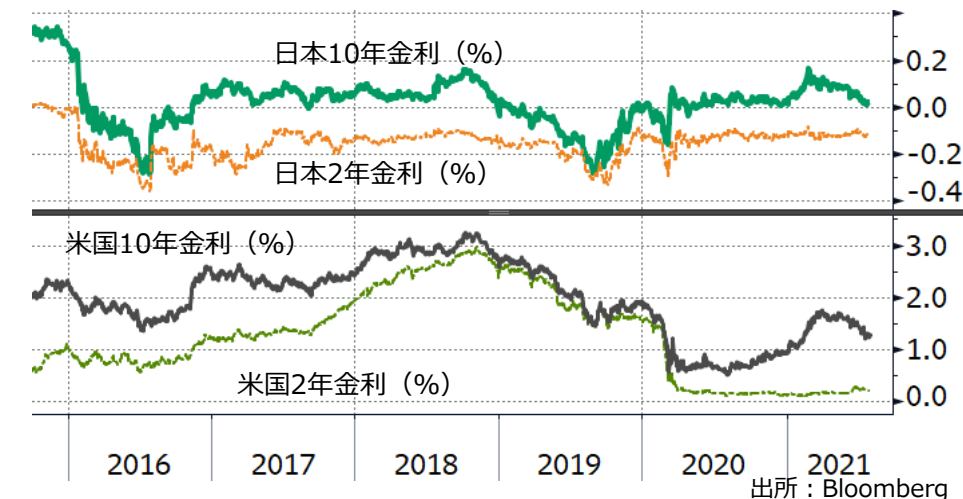
⇒ ダウは上昇

34,000 – 35,500ドル

NYダウは上昇を予想

米国でもデルタ株の感染が拡大しつつあるものの、ワクチン接種により経済の正常化が進む中で、米国経済は底堅い回復となっており、相対的に安全な米国株は引き続き底堅い展開を予想。米金利が上昇しづらいことも株価にはポジティブ。一方グローバルにデルタ株の拡大が懸念されるほか、米中の景気頭打ち懸念等も燦り、上値追いも限定的とみる。

長 期 金 利 見 通 し



日本国債10年

⇒ 金利は横ばい

0.00 – 0.08%

日本国債は金利横ばいを予想

7月は米金利の低下に連れ円金利も低下。引き続き米金利が低位での推移となる中、円金利が単独で水準を上げ続けることは想定しづらく、国内金利についても引き続きレンジ内でのみみ合いとみる。一方米国で債務上限引き上げの議論が難航した場合は米金利に上昇圧力がかかる可能性もあり、その場合は円金利も小幅に連れ高となると見る。

米国債10年

⇒ 金利は横ばい

1.15 – 1.40%

米国債は金利横ばいを予想

景気回復の頭打ち感やデルタ株の広がり等から先月の米金利も大きく低下しており、今月も金利上昇要因に乏しく引き続き低位での推移が継続しやすいものとみる。引き続き雇用・物価指標や、月末のジャクソンホールシンポジウムでのテーパリングへの踏み込んだ示唆があるかは注目。一方7月末には現行の債務上限の停止措置が失効、両党の協議が難航した場合には金利上昇リスクも孕む。

© 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2021年8月号)

◆ 今月の相場見通し④ 新興国通貨 (アジア)

		7/29		8月の予想	7月のレビュー	8月の見通し
中国	人民元/円	16.96	➡	16.8~17.2	ドル人民元は1ドル6.4元台後半の狭いレンジ内でのみ合いが続いたが月末にかけ中国株急落を受けて6.5元を超える場面もあったが、すぐに巻き戻された。人民元円はやや円高含みで小幅にレンジを切り下げた。2Q実質GDP、6月生産・小売・投資の経済指標は総じて堅調。中国人民銀行は預金準備率引下げを実施も人民元相場への影響は限定的だった。	今月の人民元相場は元高ドル安を予想。ドル人民元6.4台では直近レンジの中心付近で膠着相場となりやすい。ドル要因での動きとなりやすく、米国の金融政策に注目。8/26から開催されるジャクソンホール会議でテーバリング議論の目立った進展なければややドル安の展開とみる。一方、中国要因では資金流出リスクに注意、当局の規制強化の動きが嫌気されるとやや元安圧力がかかる。
	ドル/人民元	6.46	➡	6.35~6.55		
タイ	バーツ/円	3.33	➡	3.20~3.40	7月のタイバーツ相場は一方向にバーツ安が進む展開とでドルバーツは1ドル33バーツに迫り上昇。バーツ円は下値3.32をつけた。タイ国内のコロナ感染状況悪化が最大の重石。デルタ変異株により感染者数が増加し、日次の新規感染者数は15,000人を突破。タイバーツは今年度（4月以降）の対ドル下落率が5%超と他アジア通貨と比して特に弱さが目立つ。	タイバーツは観光需要低迷による旅行収支の悪化が最大の重石で引き続き上値が重い展開を想定。プーケットではサンドボックスによる観光客受入を開始するも軟調、バンコクのロックダウンが続く中で10月に予定される全土での観光客受入への不透明感は強い。またこのような状況に対する民衆の不満からデモ発生し政治リスクも重石。昨年高値1ドル33.18バーツ水準は意識される。
	ドル/バーツ	32.88	➡	32.5~33.5		
インドネシア	ルピア/円	0.756	➡	0.73~0.78	ルピア相場は7月を通じて対ドルでもみ合いの展開が続いた。ルピア円は円高含みでレンジをやや切り下げた。新型コロナウイルスの感染状況の悪化が続く中で経済の下押し懸念が残る。7月の金融政策理事会では政策金利を据え置き、成長率見通しを引き下げた。	8月のドルルピア相場もみ合いの展開を想定。金融政策面からドルも強くないとみるが、ルピアの強気材料にも乏しい。感染状況が好転に向かえば買い材料となるが、同国のワクチン接種状況が進まずデルタ株が猛威を奮う状況では見通しは厳しい。インドネシア銀行のペリー総裁は金融引き締めについて来年以降としており、政策金利も当面維持される見通し。
	ドル/ルピア	14,483	➡	14,200~14,700		
インド	ルピー/円	1.47	➡	1.45~1.50	7月のルピー相場は対ドルでもみ合いの展開。1ドル74ルピー台の狭いレンジ内での推移となった。対円では円高地合いでレンジを切り下げた。新型コロナの感染動向はピーク比では落ち着き、経済も徐々に回復傾向を見せる中で、リスク回避で新興国通貨が総じて弱さを見せる中ではルピーは底堅い推移となった。	8月のドルルピー相場は下落（ルピー高）を予想。ワクチン接種も徐々に進展する中、感染抑制傾向が継続すればインド経済の潜在力の高さから引き続き底堅い推移をするとみる。ただしCPIが目標レンジを超える高水準（6月：6.26%）にあることは懸念要因。インド中銀は8/6の会合で経済低迷を背景にハト派姿勢を堅持するとみられるが、先行きの政策スタンスは注目される。
	ドル/ルピー	74.28	➡	72.5~75.0		

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2021年8月号)

◆ 今月の相場見通し⑤ 新興国通貨（中南米・ロシア）

		7/29		8月の予想	7月のレビュー	8月の見通し
ブラジル	リアル/円	21.55	↗	19.5～22.5	7月のブラジルリアルは、乱高下の動きの後、ドル、円に対してともに下落した。月初、ブラジル株や原油価格の下落を受け、リアルは売られた。大統領汚職疑惑で生じた政権不安も重石となり、ドルリアルは一時5.3を上回った。その後、株と原油価格の反発とともにリアルは買われたが、世界景気懸念でリスク回避の動きから再び下落に転じた。	8月のブラジルリアルは材料が強弱混じる中、対ドルで横ばい、円高により対円で下落を予想。ブラジル中銀は物価高騰を制御するため、8月の会合で再度利上げを実施する可能性が高く、リアルのサポートになるだろう。一方、大統領汚職疑惑による政権不安はリアルの重しになる。また、経済再開に伴いコロナ感染者が増加に転じる可能性があり、リアルのマイナス材料になりうる。
	ドル/リアル	5.08	↗	4.80～5.20		
メキシコ	ペソ/円	5.51	↗	5.30～5.60	7月のメキシコペソは対ドルで横ばい、対円で下落した。7月前半、ドルペソは原油価格の小幅の動きに伴い、レンジ内に推移した。後半になると、世界景気減速懸念と原油価格の急落を受け、ペソも下落したが、結局原油価格の反発から下げ幅を取り消した。	8月のメキシコペソは対ドルで横ばい、対円で下落を予想。6月のメキシコ中銀のサプライズ利上げ後、更なる利上げの期待が高まった。しかし中銀高官が引き締めサイクルに入るわけではなく、市場反応は過剰と発言したこと受け、利上げ期待が後退し、ペソの上昇圧力も後退した。一方、輸出が引き続き堅調に推移する可能性が高く、ペソは安定的な動きになるだろう。
	ドル/ペソ	19.85	↗	19.5～20.3		
ロシア	ルーブル/円	1.50	↗	1.47～1.53	6月のロシアルーブルは、対ドルでほぼ横ばい、対円は下落した。為替市場のリスク回避ムードの中でドルルーブルは一時1ドル75ルーブル台までルーブル安が進んだ。その後は買い戻しが優勢、23日の金融政策理事会で5.50%⇒6.50%に利上げが行われたこともルーブル高をサポートした。	7月のロシアルーブルは対ドルで上昇を予想。6月CPIが前年比+6.5%と6高い水準にある中で次回9月の政策理事会でも更なる利上げが想定される。金融政策面からルーブル高がサポートされやすい。ロシア経済についてもコロナ禍の影響は残るが回復基調に向かっている。一方でリスクは米露関係、現状は比較的安定も米国による制裁リスクは常に燦々している。
	ドル/ルーブル	73.13	↗	71.0～74.5		

◎ 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

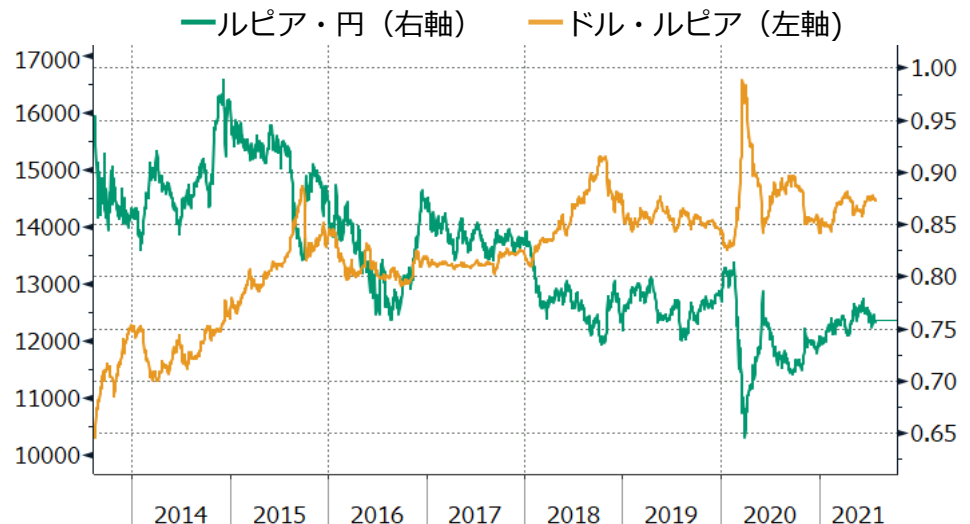
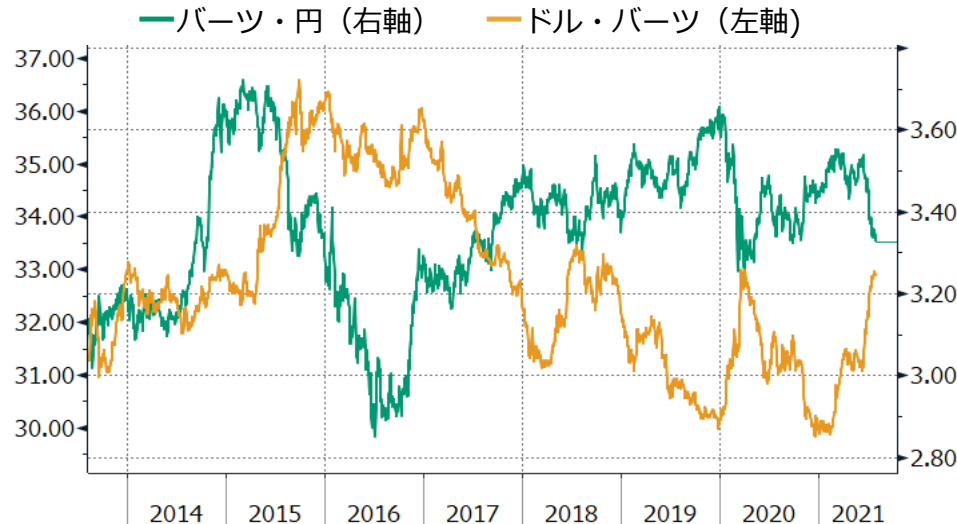
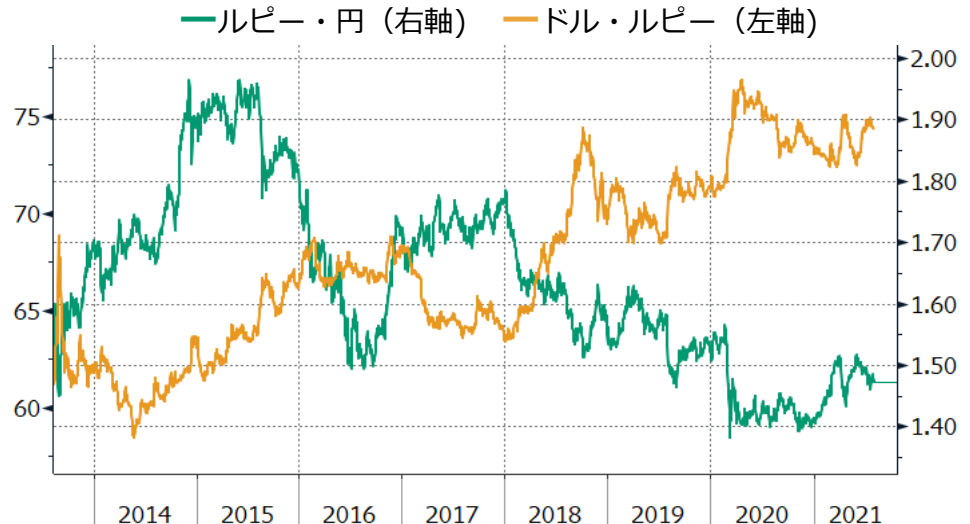
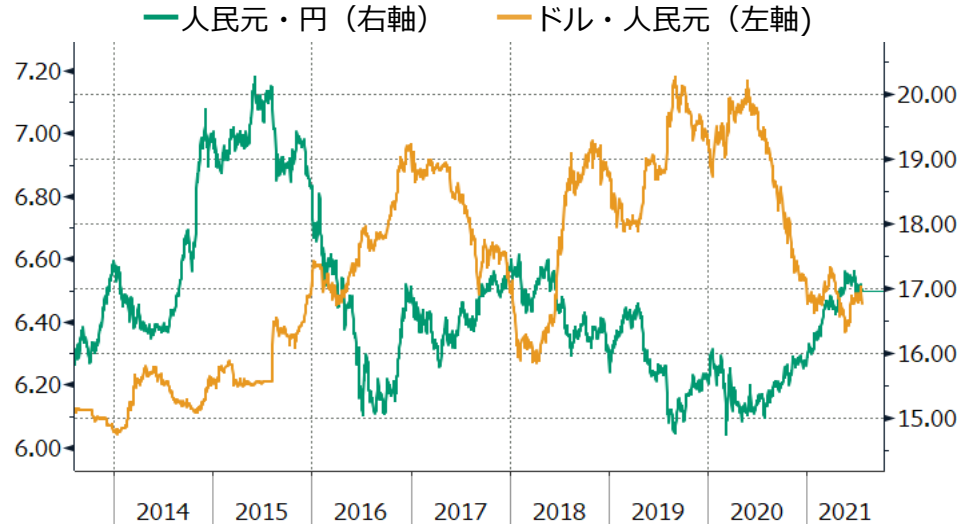
◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2021年8月号)

◆ 新興国通貨チャート



◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

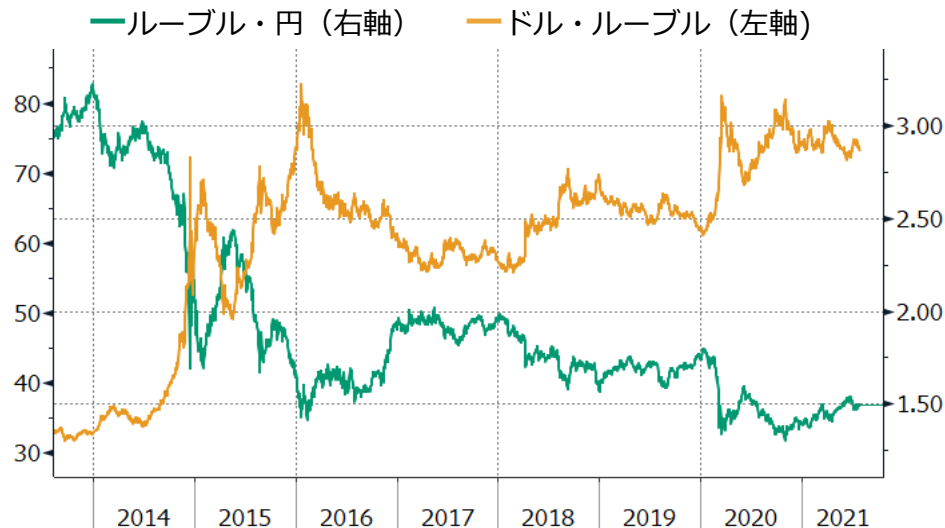
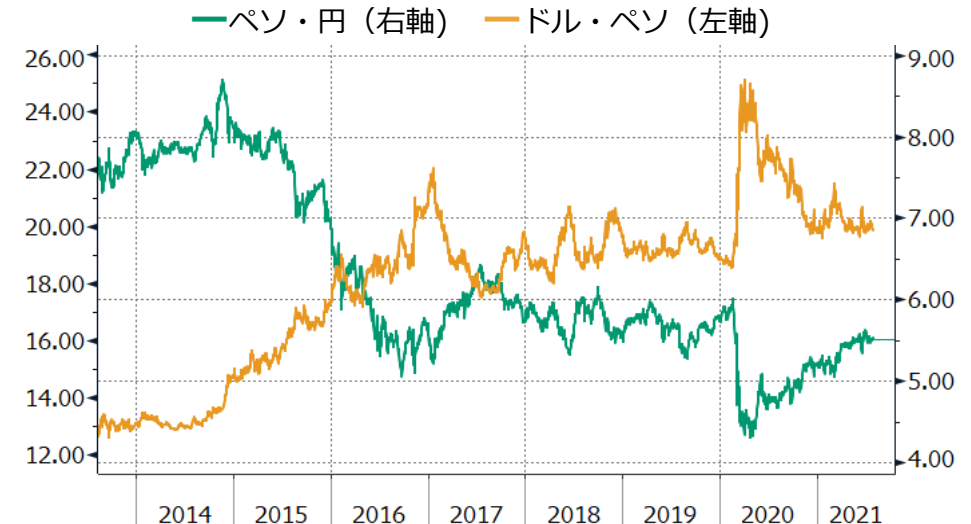
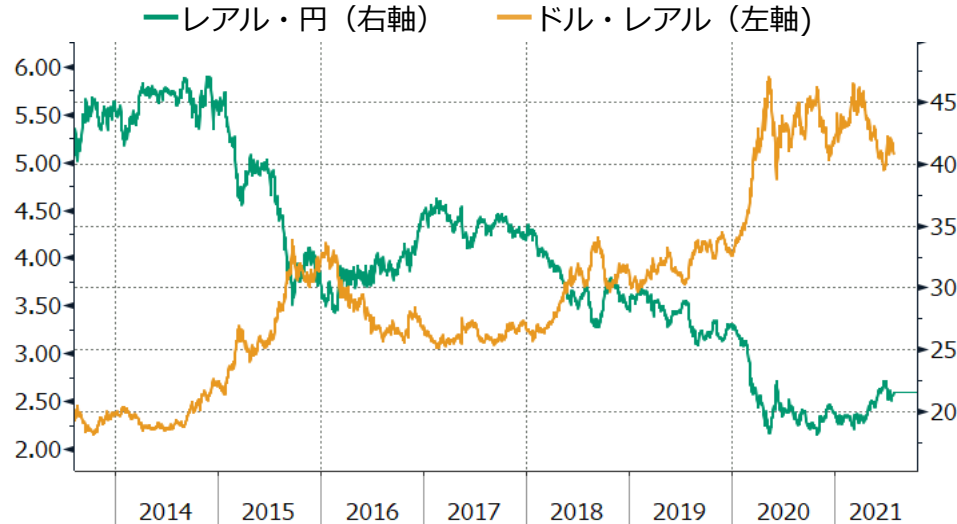
◎ 注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2021年8月号)

◆ 新興国通貨チャート



◎ 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2021年8月号)

◆ 年間為替見通し

		2021年		2022年		ポイント
		8～9月	10～12月	1～3月	4～6月	
ドル円	レンジ	106～112	107～113	108～115	110～120	9月にかけては円安基調一服でレンジ切り下げを予想。その後は米金融政策が意識され来年前半にかけ上昇。
	期末値	108	110	112	115	
ユーロドル	レンジ	1.14～1.21	1.12～1.19	1.11～1.18	1.10～1.16	欧州復興基金設立をきっかけとしたユーロへの期待はあるものの、米国や英国の中銀と比べてECBの緩和は長期化するとみられユーロの押下げ要因に。
	期末値	1.19	1.16	1.14	1.12	
ユーロ円	レンジ	125～133	124～133	124～133	122～132	
	期末値	129	128	128	128	
ポンドドル	レンジ	1.31～1.43	1.30～1.42	1.29～1.40	1.28～1.38	主要国のワクチン接種普及に伴い、足元の英国の高い普及率の優位性が薄れることに加え、原油価格の上昇一服などもポンドの上値を抑えたとみる。
	期末値	1.37	1.35	1.34	1.33	
ポンド円	レンジ	145～156	144～158	143～157	145～158	
	期末値	148	149	150	152	
ドル人民元	レンジ	6.30～6.55	6.35～6.70	6.40～6.80	6.35～6.80	米金融政策面から徐々にドル高地合いに転じることでドル人民元は年末にかけレンジを切り上げも、堅調な中国経済を背景に元安は限定的
	期末値	6.40	6.50	6.60	6.50	
人民元円	レンジ	16.5～17.5	16.4～17.5	16.4～17.5	16.8～18.0	
	期末値	16.9	16.9	17.0	17.5	
豪ドル円	レンジ	78.0～83.0	81.0～86.0	82.0～88.0	84.0～90.0	目先はリフレトレードの巻き戻しで上値重いが、中銀のハト派姿勢転換から豪ドル上昇地合いの可能性
	期末値	81.0	84.0	86.0	88.0	
タイバーツ円	レンジ	3.20～3.50	3.25～3.70	3.30～3.70	3.35～3.70	当面観光業を中心としたタイ経済の弱含みによりバーツは軟調となりやすいが、年末にかけ持ち直し
	期末値	3.35	3.45	3.50	3.50	

◎ 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい

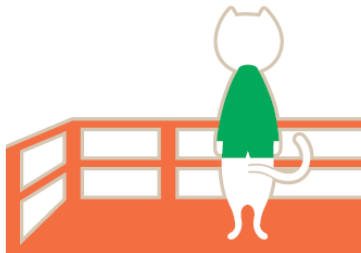


りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2021年8月号)

◆ マーケットカレンダー

	日本	米国	その他
8/2(月)		7月ISM製造業景況指数	(中) 7月製造業PMI
8/3(火)	10年債入札	6月製造業受注	(豪) 準備銀行理事会
8/4(水)		7月ADP雇用統計 7月ISM非製造業景況指数	
8/5(木)		6月貿易収支	(英) BOE金融政策委員会
8/6(金)	6月家計調査 6月毎月勤労統計 (速報)	7月雇用統計	(中) 7月貿易統計
8/9(月)	(振替休日)		(中) 7月CPI
8/10(火)	7月景気ウォッチャー調査	3年債入札	(独) 8月ZEW景気指数
8/11(水)	30年債入札	10年債入札 7月CPI	
8/12(木)	7月企業物価指数	30年債入札 7月PPI	
8/13(金)			

	日本	米国	その他
8/16(月)	4-6月期GDP (一次速報値)	8月NY連銀製造業景気指数	(中) 7月生産・小売・投資
8/17(火)		7月小売売上高	(欧) 4-6月期GDP (速報値)
8/18(水)	6月機械受注 7月貿易統計	20年債入札 7月住宅着工・許可件数 FOMC議事要旨	
8/19(木)		8月フィラデルフィア連銀製造業景気指数	
8/20(金)	7月消費者物価指数		
8/23(月)		7月中古住宅販売	(欧) 8月PMI (速報値)
8/24(火)	5年債入札	2年債入札 7月新築住宅販売	
8/25(水)		5年債入札	(独) 8月IFO企業景況感指数
8/26(木)	20年債入札	4-6月期GDP (改定値) 7年債入札	
8/27(金)		7月個人所得・消費支出	
8/30(月)			
8/31(火)	2年債入札 7月鉱工業生産 7月住宅着工件数 7月労働力調査	8月消費者信頼感指数	(中) 8月PMI



◎ 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2021年8月号)

中国の動向-主要トピックス①

りそな銀行上海駐在員事務所

【6/25~7/1】

◎ 6月のPMIは50.9 3カ月連続下落

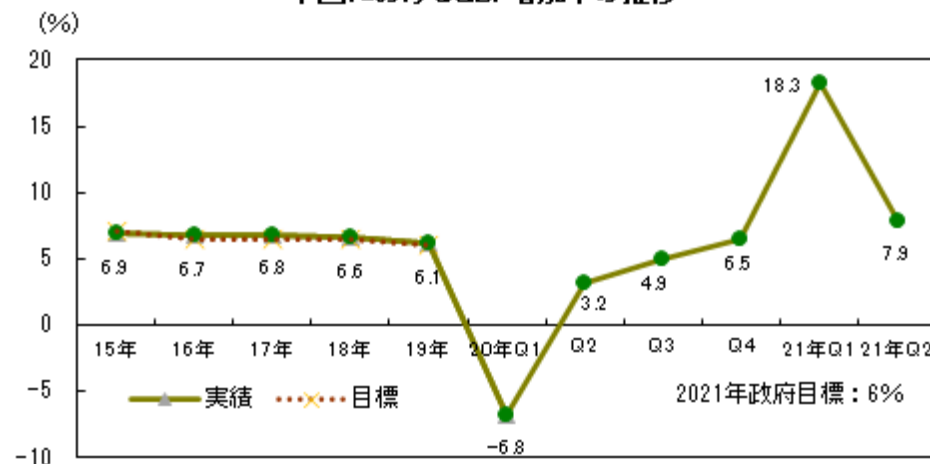
中国国家统计局は6月30日、景況感を示す製造業購買担当者指数（PMI）が6月は50.9だったと発表した。前月比0.1ポイント低下し、3カ月連続の下落となった。景況判断の基準となる50は16カ月連続で上回った。構成指数のうち、生産は半導体や電力の供給不足など影響を受け、51.9と0.8ポイント下落した。新規受注は市場の需要増を反映し、51.5と0.2ポイント上昇し、3カ月ぶりに改善した。また、企業規模別では、大型企業が51.7、中型企業が50.8で、小型企業が49.1と2カ月連続で50を割り込んだ。

【7/2~7/8】

◎ 企業景況感直近10年で最高

中国人民銀行（中央銀行）が5日発表した今年第2四半期の企業家調査によると、足元の景況感に対する見方を示す「企業家マクロ経済熱度指数」は42.1%となり、2011年第4四半期以降の最高を記録した。また、銀行家のマクロ経済に対する見通しも楽観的で、景況感を示す「銀行家マクロ経済熱度指数」は45.9%となり、2012年第1四半期以降の最高を記録した。なお、就業状況について、「比較的良い」が15.1%、「普通」が50.1%、「厳しい」または「分からない」が34.8%だった。

中国におけるGDP増加率の推移



月別CPIの推移(消費者物価指数)



◎ 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2021年8月号)

中国の動向-主要トピックス②

りそな銀行上海駐在員事務所

【7/9～7/15】

◎預金準備率0.5%引き下げ1年2カ月ぶり

中国人民銀行（中央銀行）は9日、預金準備率を15日から0.5%下げると発表した（引き下げ後の加重平均では8.9%となる）。約1兆元（17兆円）の資金が市場に放出される見通しで、一部は満期が到来する中期流動性ファシリティー（MLF）の返済に充てられる。今回の措置は原材料価格の高騰で経営困難に直面している小規模・零細企業を支援することを目的としており、人民銀行は「安定した金融政策をとる方針に変更はない」と強調している。

【7/16～7/22】

◎上海市 新興産業の発展計画を発表

上海市政府は21日、第14次5カ年計画（2021～25）期間の新興産業の発展計画を発表した。対象となる新興産業は、半導体・バイオ医薬・人工知能・新エネルギー車・ハイエンド設備・航空宇宙・情報通信・新材料・新興デジタルの9産業。また、2025年までに9産業の生産額が同市GDPの2割以上を占めることを目標に据えた。中でも半導体、人工知能、バイオ医薬を「三大核心産業」と位置付け、特に半導体産業は25年までの年平均成長率を20%にすることを目指している。

主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2020/8	2020/9	2020/10	2020/11	2020/12	2021/1	2021/2	2021/3	2021/4	2021/5	2021/6
実質GDP成長率	%	-	4.9	-	-	6.5	-	-	18.3	-	-	7.9
消費者物価上昇率	%	2.4	1.7	0.5	-0.5	0.2	-0.3	-0.2	0.4	0.9	1.3	1.1
都市部調査失業率	%	5.6	5.4	5.3	5.2	5.2	-	5.5	5.3	5.1	5.0	5.0
輸出額	10億ドル	234.4	238.6	236.2	266.9	281.8	263.8	204.8	240.9	263.6	263.8	281.4
輸入額	10億ドル	177.2	203.1	178.8	192.4	205.8	200.9	168.3	227.9	221.4	218.4	229.9
経常収支	100万ドル	-	150,215	-	-	273,980	-	-	69,446	-	-	-
外貨準備高	10億ドル	3,164.6	3,142.6	3,128.0	3,178.5	3,216.5	3,210.7	3,205.0	3,170.0	3,198.2	3,221.8	3,214.0
主要政策金利	%	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35
対ドル為替レート	人民元	6.93	6.81	6.70	6.60	6.54	6.47	6.46	6.51	6.52	6.42	6.43

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：1年物貸出基準金利

出所：Bloomberg

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2021年8月号)

“上海下午茶”（上海からティータイム）

りそな銀行上海駐在員事務所

○海南島 中国で最も開放度の高い地域に

南国のリゾート地や果物の農産地としてよく知られている海南島はここ数年間、国レベルの発展計画や一連の法案が公布・施行され、投資、金融、消費、医療など様々な面で国内で最も開放的なエリアになりつつあります。

計画によると、2025年から島内全域を自由貿易試験区として運営開始する予定で、適格企業の優遇税率適用（15%）、離島消費免税など投資・貿易の自由化・便利化を実現させるとしています。また、2035年までには、人の往来やクロスボーダー資金流動の自由化を実現させるなどオフショア市場を整備する目標も掲げているようです。

国内外から注目を集めた海南島は、これからどんなスピードで変化していくのか興味深いです。



○浦東美術館（MAP）について

浦東美術館（別称MAP）が、陸家嘴金融エリア最後の黄金ロケーションとも呼ばれる濱江大道2777号でオープンしました。上海には数十か所の美術館がありますが、MAPはこれから世界級の美術館と提携して、上海最高レベルの美術館を育成していく目標を掲げているようです。

報道によると、現時点ではMAPはイギリスのテート美術館（Tate Modern and Tate Britain）と提携合意書を締結し、これからの3年間に於いて、テート美術館傘下の4大美術館が所有するすべてのコレクションの展示にかかる交流や協力を行う予定です。

私も早速行ってみました。展示している作品はテート美術館のコレクション以外にもたくさんあり、スペースも結構広いので5時間もかかってしまいました。大好きな画家ターナー（J.M.W. Turner）の作品が、今回は3点しか展示されていませんでしたが、上海で本作を見ることができ大満足でした。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2021年8月号)

タイの景気動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

◆タイ中央銀行が発表した2021年5月の主要経済指標（速報値）によれば、タイ経済は新型コロナウイルス感染拡大第3波の影響によるタイ経済への影響がより鮮明になった。個人消費指数は前年同月比0.5%増。耐久消費財と半耐久消費財が伸びたが、非耐久消費財とサービスは減少した。民間投資指数は同28.1%上昇。貿易相手国の需要回復を背景に、輸出は回復基調にあり、工業生産に寄与している。

◆タイ商務省によると、2021年5月の輸出額は前年同月比41.6%増の230億5,791万米ドルと、11年ぶりの高い伸びを記録した。工業製品は48.0%の大幅増と3カ月連続のプラス、農産物・加工品の輸出は14.3%増と6カ月連続のプラスとなった。自動車・同部品、石油関連製品、家具・同部品、コンピューター・同部品の輸出は拡大した。医薬品、電話機・テレビ受像機等は減少した。市場別では、中国向けの輸出額は引き続き最多、25.5%増。米国、日本、EU、CLMV諸国（カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム）向けは増加した。東南アジア諸国連合5カ国向けはプラス成長に転じた。5月の輸入額は同63.5%増の222億6,196万米ドル。この結果、貿易収支は7億9,595万米ドルの黒字となった。一方、5月の対米ドル・パーツ相場は

平均で1米ドル=31.29パーツで、前月の31.33パーツ比パーツ高だった。

◆タイ中央銀行は23日、タイの国内総生産（GDP）の成長率予測を下方修正した。2021年のGDP成長率予測を今年3月時点の予測の3.0%から1.8%に、2022年のGDP成長率予測を4.7%から3.9%にそれぞれ修正した。外国人旅行者数の減少、内需の抑制等が挙げられる。

◆タイ商務省が発表した6月の一般消費者物価指数（CPI）は、前年同月比1.25%上昇し、3カ月連続のプラス成長。食品・飲料は同0.29%上昇した。非食品は同1.87%上昇。また、今年1～6月のCPI平均値は前年同期比0.89%上昇した。

主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2020/8	2020/9	2020/10	2020/11	2020/12	2021/1	2021/2	2021/3	2021/4	2021/5	2021/6
実質GDP成長率	%	-	-6.4	-	-	-4.2	-	-	-2.6	-	-	-
消費者物価上昇率	%	-0.5	-0.7	-0.5	-0.4	-0.3	-0.3	-1.2	-0.1	3.4	2.4	1.3
失業率	%	1.9	1.8	2.1	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	-
輸出額	100万ドル	20,175	19,671	19,377	18,960	20,076	19,707	20,219	24,222	21,429	23,058	-
輸入額	100万ドル	15,863	17,391	17,330	18,880	18,958	19,909	20,212	23,512	21,247	22,262	-
経常収支	100万ドル	3,545	1,440	674	-1,294	-574	-903	-1,347	-1,168	-1,298	-2,624	-
外貨準備高	10億ドル	254.5	251.1	248.5	253.5	258.1	256.8	253.9	245.5	250.4	251.8	246.5
主要政策金利	%	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50
対ドル為替レート	パーツ	31.2	31.4	31.3	30.5	30.1	30.0	30.0	30.8	31.3	31.3	31.5

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：タイ翌日物レボ金利

出所：Bloomberg

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2021年8月号)

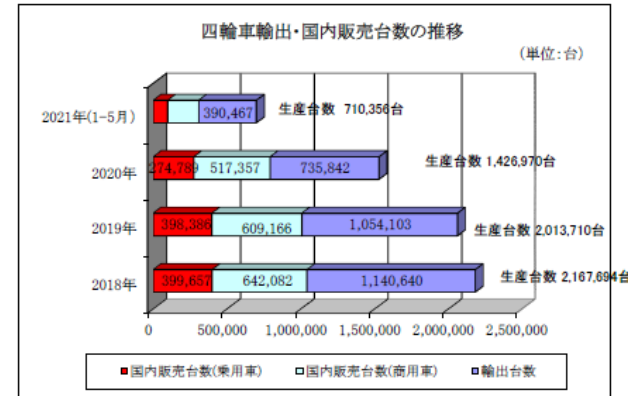
タイにおける自動車産業の動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

タイにおける自動車産業の動向

出所:タイ工業連盟 (FTI)

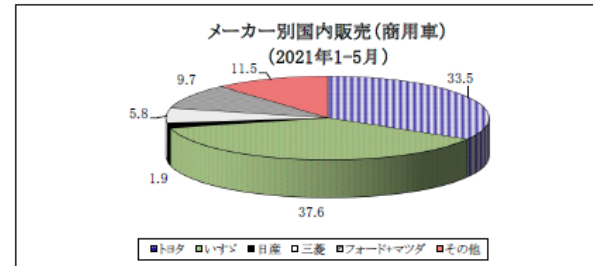
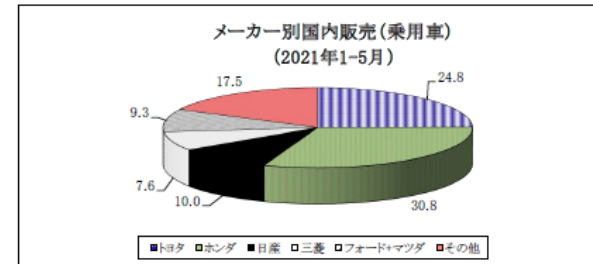
	2018年	2019年	2020年	2021年 (1-5月)	前年同期比 (%)	5月
【台数】						
四輪						
生産台数						
乗用車	884,609	804,340	542,437	247,263	121.9	44,400
商用車	1,283,085	1,209,370	884,533	463,093	139.6	95,768
合計	2,167,694	2,013,710	1,426,970	710,356	132.9	140,168
国内販売台数						
乗用車	399,657	398,386	274,789	97,813	98.9	15,569
商用車	642,082	609,166	517,357	210,404	122.2	40,379
合計	1,041,739	1,007,552	792,146	308,217	113.9	55,948
輸出台数	1,140,640	1,054,103	735,842	390,467	129.9	79,479
二輪						
生産台数	2,063,076	1,948,480	1,615,319	831,592	137.1	183,760
国内販売台数	1,788,323	1,718,587	1,516,096	711,174	117.2	141,881
輸出台数	886,275	948,839	727,152	392,026	124.2	63,043
【完成車輸出金額】						
四輪	594,810	545,968	410,912	221,430	139.5	48,417
二輪	61,654	69,933	85,802	34,547	131.1	5,295



【メーカー別国内販売台数】

出所:トヨタ自動車

	2018年	シェア (%)	2019年	シェア (%)	2020年	シェア (%)	2021年 (1-5月)	前年同期比 (%)	シェア (%)	5月
トヨタ										
乗用車	112,394	28.1	117,708	29.5	68,152	24.8	24,289	96.7	24.8	4,824
商用車	202,719	31.6	214,672	35.2	176,164	34.1	70,559	126.6	33.5	14,943
合計	315,113	30.2	332,380	33.0	244,316	30.8	94,848	117.3	30.8	19,767
いすゞ										
乗用車	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.0	0
商用車	177,864	27.7	168,215	27.6	181,194	35.0	79,067	133.1	37.6	14,866
合計	177,864	17.1	168,215	16.7	181,194	22.9	79,067	133.1	25.7	14,866
ホンダ										
乗用車	95,793	24.0	96,154	24.1	77,419	28.2	30,164	101.6	30.8	4,380
商用車	32,497	5.1	29,679	4.9	15,622	3.0	5,212	89.8	2.5	618
合計	128,290	12.3	125,833	12.5	93,041	11.7	35,376	99.6	11.5	4,998
日産										
乗用車	43,991	11.0	35,809	9.0	27,120	9.9	9,739	89.3	10.0	1,447
商用車	28,403	4.4	28,605	4.7	17,438	3.4	4,018	56.8	1.9	587
合計	72,394	6.9	64,414	6.4	44,558	5.6	13,757	76.5	4.5	2,034
三菱										
乗用車	31,594	7.9	38,879	9.8	22,363	8.1	7,422	83.3	7.6	1,177
商用車	52,966	8.2	49,365	8.1	35,046	6.8	12,162	94.6	5.8	2,215
合計	84,560	8.1	88,244	8.8	57,409	7.2	19,584	90.0	6.4	3,392
その他										
乗用車	115,885	29.0	109,836	27.6	79,735	29.0	26,199	107.8	26.8	3,741
商用車	147,633	23.0	118,630	19.5	91,893	17.7	39,386	127.9	18.7	7,150
合計	263,518	25.4	228,466	22.7	171,628	21.8	65,585	119.0	21.1	10,891
合計										
乗用車	399,657	100.0	398,386	100.0	274,789	100.0	97,813	98.9	100.0	15,569
商用車	642,082	100.0	609,166	100.0	517,357	100.0	210,404	122.2	100.0	40,379
合計	1,041,739	100.0	1,007,552	100.0	792,146	100.0	308,217	113.9	100.0	55,948



◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。